

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600186		
法人名	住拓工業株式会社		
事業所名	グループホーム福寿草		
所在地	北海道苫小牧市本幸町1-3-5		
自己評価作成日	平成25年8月23日	評価結果市町村受理日	平成25年9月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームとして求められておられますところの、残存機能の維持と認知症々状の進行予防の為、入居者の方々には調理、掃除、洗濯、その他屋外での軽作業等に出来る限り参加頂き、取り組んで頂いています。
また、事業所開設以来懸案事項でありました正面玄関の施錠の取り扱いに置きまして、今年に入りようやく日中の解錠実現に至っております。関係方面の皆様方からは賛否につきまして様々ご意見を頂いておりますが、事業所側と致しましてより行動制限のないサービスを目指し、又その為には介護職員ひとりひとりのスキルを高めていく事も目標としております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=tue&JigyosyoCd=0193600186-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 25 年 9 月 6 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、福祉に対する関心の高い運営者が福祉用具等の支援を行う中で、社会貢献への実践として当地に開設して3年が経過しています。バス停に近く、教育・福祉センターや福祉・文化交流機関等の地域資源が点在している地域に位置し、家族や知人が訪れやすいなど利便性に優れています。運営推進会議では、自己評価や外部評価で表出された課題、ヒヤリハットや事故の事例、寄せられた意見等を公表し、地域に開かれたホームを目指しています。メンバーからの意見や提案を活かし、改善に向けた取り組みが進められています。ホームのサービスの質の確保に繋がる地域との交流、職員の向上心を促進するための研修の充実、防災対策の強化等に取り組むことを検討しています。職員は、利用者から学びを頂きながら一緒に過ごして行きたいと、ケアサービスに努めている「グループホーム福寿草」です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をホーム内の何箇所かに掲示し、周知の徹底を図り、職員は常に念頭に置き理念を共有しケアする様心がけている。	開設時に管理者が中心となり、地域密着型サービスの意義を含んだ理念を作成していますが、理念の共有や実践については、職員の意思統一が十分ではありません。	ホームの社会的役割を今一度検討され、職員自身が常に立ち戻る原点となる理念を共有し、ケアサービスに活かされる取り組みに期待します。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議での町内会の参加、また避難訓練やホームの行事等を行う際には参加して頂けるよう呼びかけている。また入居者の散歩等を通し日常的に挨拶を交わすようにしている。	地域との交流は、近所の方々への挨拶はもとより福祉、文化交流機関等を訪れ、音楽会や展示会を鑑賞しています。小学校の資源回収への協力や、管理者が地域で認知症サポーター養成講座の講師を務めています。	町内会にホーム行事の案内を出していますが、交流には至っていませんので、町内会への加入や近隣の児童・生徒との触れ合い、ボランティア受け入れ等を検討され、地域との繋がりを深める取り組みに期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域へ積極的に認知症の理解を深めて頂けるような働きかけを具体的な形で行っていききたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ケアサービスの報告、行事等の予定や実施の報告を行い、意見等を聞き又話し合いを行っている。又そこでの意見や要望を全職員へ伝え、サービス向上に繋がるよう努めている。	会議は定期的に行っています。ヒヤリハットや事故の事例、行事、寄せられた意見など、ホームの現状を伝えています。メンバーの参加を頂いた避難訓練後の会議時には、地域との協力体制、連絡網や非常ベルを使用している実践的訓練等の提案があります。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市の担当者へ出席して頂いている。又疑義等が発生した場合にはその都度指導、助言を頂くようにしている。	行政とは会議や各種報告、相談事など、行き来する機会を捉え、情報や意見の交換が行われ、ホームの質向上に繋げています。看取りに伴う課題を相談し解決に至っています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は17時から翌9時までの間は防犯上の事もあり施錠しているが、以外の時間帯は自由に開閉できるような状態になっている。研修等を通じ身体拘束に対する更なる周知徹底を図っていく。	身体拘束については、外部・内部研修で具体例やその弊害を学んでいます。課題であった玄関の施錠は、夜間のみとしています。不適切なケアが見受けられた場合は、管理者やリーダーが注意喚起を促していますが、今後、職員間で注意し合える関係作りを課題としています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は常に言動に注意しケアに当たっているが、高齢者虐待防止法等の勉強会等は近々では実施できておらず、今後積極的に勉強会の機会等を確保できるよう努めて行く。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	スタッフは当該制度の理解には至っておらず、今後勉強会等で理解を深め、支援に結び付けて行くようにしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	納得頂ける様な説明に努めている。疑問点などがあるときは遠慮なく問い合わせてもらおうよう伝えている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	個別の苦情や運営推進会議での意見等、ご家族への公開を随時行っており、運営に反映させられる様にしている。	家族には、月1回発行のホーム便りや家族来訪時に電話等で利用者の日常を伝え、家族が意見を表せる機会を設けています。職員は、家族からの率直な意見や提案を受け止め解決策を協議し、内容はホーム内に掲示しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別の意見を聞く機会はなかなか取れないが、少なくともユニットリーダーにて意見等を集約し、管理者へ報告させ反映させる機会を作る様にしている。	職員は備品管理、行事、献立等の部門を担い、運営に活かしています。管理者は都度職員の要望を傾聴していますが、殆どはユニットリーダーが職員の意見を集約し、管理者に報告しています。解決が困難な場合は、代表者の指示を仰いでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	条件整備が図られているとは言い難い。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会も更に設けたいと考えているが、休みを利用しての個人的な機会確保は別として業務命令としての研修の機会はほとんど設けられておらず、どちらかと言うとそういった事に対して経費をかけるという考え方ではないと思える。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者による交流の機会の設定は残念ながらなく、専ら管理者がそういった取り組みをわずかにしている程度である。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者が行っており、要望等はスタッフにも伝わっている。入居開始直後は特に入居者の不安も強い事が多い為関係作りにはなるべく時間をかけ慎重に行う様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	主に管理者や現場リーダー等が行っている。要望等は介護職員にも伝わっておりより良い信頼関係構築の為努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームと言う特性上、別な介護サービス利用と言う事には繋がらないが、特に健康面について見落とされたりする事が多く、利用開始後関係医療機関との連携により受診対応して頂く事も多い。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支え合う関係になれるよう努力している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族、事業所が共同作業により入居者への支援を行っていきけるよう、具体的には面会等で関係性を保つ（家族に対する認識が長く維持できるように）べく、お願いしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのある方との関係性の継続については該当する方に対して都合の許す限りで面会に来て頂くようお願いしている。ご依頼があり、体制が許す限りであれば美容院へお連れする等の事も行うようにしている。	職員は利用者との会話の中から、馴染みの人や場所との関係を傾聴し、共感しています。知人の来訪時には、お茶を出すなどの配慮に努めています。時には、家族の協力を頂き、墓参り、外食、仏花の購入、図書館、サンガーデンなどへの外出支援をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	折に触れ場面場面において職員が働きかけ、良い関係性が保てるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了時にご家族へ随時ご相談を承る事を伝えている。必要に応じてのフォローは実際ほとんど出来ていないのが実情である。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自宅へ帰りたいたいという希望に対して添う事は非常に難しいが、ホーム内での過ごし方についての要望については職員体制が許す限り応じるよう申し合わせている。	職員は生活歴や家族からの情報を踏まえ、日々の関わりから利用者の思いの汲み取りに努めています。今後、情報を蓄積し、利用者の根底にある意向の把握充実を課題としています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ひとりひとり過去において何に関心を示していたか等、関係機関からの情報やご家族からのお話等により把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の様子観察を怠らぬ様ユニット全体で申し合わせているが、やや認識不足であると思える事もある。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者、並びにご家族の意向や職員の作成したモニタリングを元に計画作成担当者が介護計画のたたき台を作成し更に会議等で職員の意見を募り反映して行きながら、より現状に即したものとなるようにしている。	些細な言葉からも利用者や家族の意向を捉え、ホームとして利用者をどう支援するかを職員全員で協議し、介護計画を作成しています。ただし、計画と日々の個人記録の連動性が十分ではありません。	介護計画の実践がケア記録の中で容易に確認でき、見直し時に活かせる記録の整備に期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	なるべく細かい部分まで観察した事を記録化するようにしている。内容は各自の閲覧や会議、申し送りでの連絡により伝わる様にし、最終的に介護計画の内容に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ホーム内だけでのサービスのみならず、地域の特性を生かしたサービス提供も必要と感じているが、まだまだ課題は多いと感じている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握はある程度出来ている。少しずつ活用に至ってきているが、より多くの活用に至る様努力する必要があると思っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	ご家族とも協議の上、以前からのかかりつけ医又はホームの協力医いずれかに決め、受診については主にホーム職員にて行っている。	利用以前からのかかりつけ医へや、他科の受診支援を行っています。協力医による月1～2回の訪問診療を受ける利用者もおり、受診記録を医療関係者や家族と共有し、適切な医療を受けられるよう支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週定期的に訪問看護ステーション看護師に健康相談に来て頂いている。その際各入居者の健康上の相談を行って頂いており、状況によっては医師と訪問看護師との協議により受診へ繋げる事もある。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には早期の退院に繋げる様ご家族と主治医との協議、連携を密に行っている。また日頃から協力医との連携も図れており、急変などの際には協力医から他の医療機関への照会等も随時行って頂ける体制にある。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に関する勉強会を実施した。今までの所看取り介護を行った実践例はない。	重度化や終末期に向けたホームの指針を策定し、同意書を整備しています。重篤時に備え、看取りを視野に入れた研修を実施していますが、これまで看取りの経験ははりません。	職員や利用者、家族の安心に繋がるさらなる知識や技術の習得、医療関係者や家族との連携により、より迅速な支援ができる体制作りへの取り組みに期待します。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習を受講させている。心肺蘇生法等は日常で活用する機会はほとんどなく、忘れてしまう事も十分あり得る為、ある程度定期的を受講できるよう計画している。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を運営推進介護と同じ日に実施し、地域の方や家族の方にお手伝い頂いている。近隣の住民の方々への働きかけが出来ておらず、今後の課題と考えている。	年1～2回、消防署の指導の下、運営推進会議のメンバーの方々に参加を頂き、津波や昼夜想定避難訓練を実施しています。さらに、ユニット毎に年に数回の自主訓練を行っていますが、周辺住民の方々との連携には至っていません。	防災対策の強化取り組みとして、火を出さないことを認識した防災チェック、今後もあらゆる風水害を想定した実践的訓練、避難経路や場所の確認、防寒対策を含んだ備蓄品の用意への検討が望まれます。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	十分配慮できていると思う。	職員は利用者一人ひとりの性格や信条等を把握し、言葉かけや対応には十分配慮しています。個人情報には目に触れないようにするなど、プライバシー保護の周知徹底を図っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	心掛けてはいるものの、上手く引き出せずにいる入居者がいるのも事実である。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合を優先してはいけない事は認識しているものの、しかしながら職員の対応が難しくひとりひとりの入居者の希望に添えない事も事実多い状態である。更に介護の方法に工夫が必要であると感じている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人、ご家族の希望を尊重し出来る範囲での支援を行っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各入居者の思いや気持ち異なり、いっしょに作業を行って頂ける場面で提供できない状況にある為、単独での場面設定であれば何とか機会確保できている状態である。	献立担当の職員による利用者の嗜好や栄養、彩りに配慮した食事を提供し、一連の作業を利用者と一緒に行っています。時には菜園での収穫物を取り入れたり、昼食タイムをホーム前庭や公園、外食などで変化をつけ、楽しい食事になるよう努めています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人ごとに嗜好や摂取能力等に違いがあるが、なるべくその方に合わせた状態で提供し少しでも多くの量を摂取して頂けるよう工夫、努力している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯洗浄は定期的に職員介助の元行っている。しかし全員の毎食後の口腔ケアは浸透させられていない状況である。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各入居者の排泄状況を把握し、おむつ等を使用している方でもなるべくトイレで排泄が実現できるような支援を行っている。	排泄チェック表で一人ひとりの排泄の間隔や習慣を把握し、声掛けや誘導などでトイレでの排泄支援に取り組んでいます。支援により排泄の失敗や衛生用品の軽減に繋がっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫、定期的な運動時間の組み入れと云う点については不十分である。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	大半の方が職員の介助を必要としており、体制上の事もあって全てお好きな時間帯に入浴して頂く事は実現が難しい。従って時間設定している場合については入浴の希望をされている方については極力入って頂けるようにしている。	入浴の回数や時間帯は、利用者の要望に沿うように努めていますが、殆どの利用者が職員の支援の下で入浴しているため、要望に応じられない場合もあります。また、入浴を拒む利用者もおります。最低週2回以上、平均して週3回の入浴機会が確保できるよう支援され清潔が保たれています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	疲労がある場合の休養など職員の配慮が必要な方もおり、その都度行動面の観察をする事で随時働きかけを行う様にしている。また居室内の温度などへも当然ながら配慮するようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	細かい薬品名や袋内の錠剤数等の把握は完全ではない。誤薬がないよう服薬時についての確認は複数の職員で確実にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割を持って頂いている方も中に入るが、身体的な問題で出来る事に限度がある方が多く、またひとつの作業を複数の方が希望したりするため入居者間の調整が毎回必要な状態になっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候が良い日はなるべく屋外に出て頂ける機会を設ける様努めてはいる。またこの頃は少しずつ行事の機会も増やす事が出来るようになってきた。	天候や体調に配慮し、散歩や買い物、ごみ出し、公共施設のイベント見学、ホーム前庭や近くの公園での昼食タイムなど、外気に触れる機会を作っています。さらに、家族の協力の下、個別の外出支援や苺狩り、ドライブ、花見などを計画し、外出支援の充実に努めています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の約3分の1は現金を所持している。外出の際は土産等を購入する機会等も設定し、ひとりひとりの希望や力に応じて支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	頻回に電話する方がおり、ホームの固定電話を利用して頂いている。手紙を出す習慣の方は今の所いない（年賀状程度）。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じる事の出来るものや季節の花等を配置し環境づくりに努めている。	各ユニットは間取りが統一され、採光や空調は配慮されています。内部の掲示物や装飾品、季節にちなんだ作品等はそれぞれに趣があり、落ち着いた雰囲気があります。リビングの窓から見える菜園が会話の糸口になっています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニット内にひとりだったり気の合う方と一緒にいれたりする場所がある。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室では以前の生活を尊重し仏壇を持参されている方や、馴染みのある家具等を持ち込んで頂くよう配慮している。	表札が掲げられている居室には、利用者が安心して暮らせるよう、馴染みの家具や仏壇、趣味の物が置かれています。温湿度計が設置されていますが、高い位置にあるため、体感と若干差があるように見受けられました。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安心かつ自立した生活を考えた場合、設備的な配慮は勿論なされているが、入居者個々が安全に設備を利用する為の見守りについては所々不十分であったりする所も多い。			